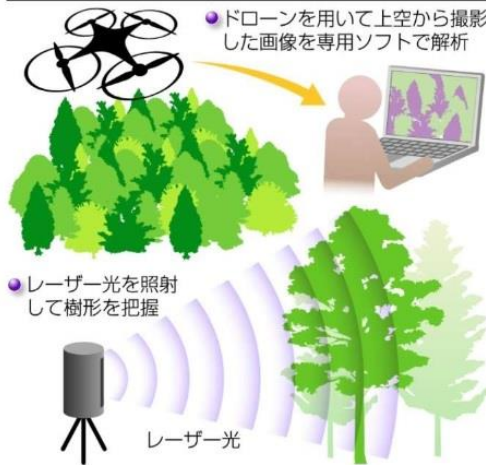


年 組 名前：

森林資源調査 ICT活用

県研究所 省力化、人手不足に対応

森林調査へのICT活用イメージ



山梨県森林総合研究所（富士川町）が、森林資源量調査への情報通信技術（ICT）活用を進めている。レーザー光を照射したり、ドローンを使ったりして樹形を把握する手法の研究を進め、マニュアルにまとめて活用を促す。これまで県内の林業事業者が人手で担ってきた調査の省力化を図り、業界の課題である後継者不足や高齢化に対応する。木の木数や樹高などを調べ

山梨県森林総合研究所は、計画的な伐採や市場出荷に必要な調査。県内各地の森林組合などは人力でデータを集めていて、労力がかかることが課題になっている。1965年には3800人程度いた県内の林業事業者は近年、9000人で推移。高齢化が進み慢性的に人手不足となる中、業務の効率化を図ることが急務となっている。

研究所の大地純平主任研究員によると、森林の調査方法

は近年、レーザー光が地表や木から反射して戻る時間を基に距離などを割り出し、樹高や木の太さなどを3次元で把握する仕組みが登場。スマートフォンアプリを活用し、測量する簡易的な方法も出てきている。ドローンを活用して上空から撮影した画像を専用のソフトで解析する方法もあり、近年は愛知や岐阜、長野県などで導入が進むという。

ただ、実際に活用するには中小事業者に難しさもあるため、県内での導入のしやすさという観点で検証し、研究所が推奨できる仕組みや手法を探る。研究所は複数の手法をまとめ、事業内容や森林の状況によって最適な手法を選べるようにマニュアル化する。技術を使って得たデータの正確さや効率性のほか、導入費用も調べる。本年度からの2年で成果をまとめる予定。

大地主任研究員は「人力では担当者の経験値によって情報の正確性に差があったが、デジタル化することで誰でも差がなく調査ができる」と利点を強調する。人の手による調査より事故の危険性も低くなるが見込まれることから、「林業の労働環境改善につながる」としている。

（小池直輝）

（2023年11月20日付 山梨日日新聞1面）

問1 山梨県森林総合研究所は、森林資源量調査への情報通信技術活用を進めています。どのような手法の研究を進めていますか。

.....

問2 この取り組みは、県内の林業業界の、どのような課題に対応するためですか。

.....

問3 マニュアルには、具体的に何を記載しますか。

.....

問4 マニュアルを作成することによる利点を教えてください。

.....